

一番茶生育期におけるかん水の効果

[研究のねらい]

- ・高品質安定生産のために、積極的な茶園かん水を行っていく必要がある。
- ・冬から春にかけての少雨が一番茶の収量減少の主要因と考えられる場合があるが、その影響程度は明らかにされていないため、一番茶生育に適した水分環境の解明が求められている。
- ・そこで、新芽生育への影響が大きい春季をターゲットとして、水分環境が生育に及ぼす影響について調査した。



スプリンクラーによる茶園へのかん水

[研究の成果]

- ・一番茶生育期に降雨を遮断して水分供給を制限することにより、新芽の伸張と拡大が抑制され、乾物生産量が減少する。さらに強度な制限により、含水率の低下や生育遅延、茎の硬化度増大などを引き起こす。
- ・1回5mm程度の少量かん水による新芽への影響の軽減効果が確認され、その効果はテンションメータで検出できないが、熱画像の測定や、かん水量を換算した積算日照時間でおおまかな影響程度を検出できる。
- ・春季の消費水量は1.9~3.4mm/日程度であり、春季であっても消費水量が多い日には夏季の平均消費水量と同程度まで高まる。
- ・新芽生育期に適切な土壌水分環境で管理することにより、不安定な気象条件に左右されないで、一番茶を安定的に生産することができる。

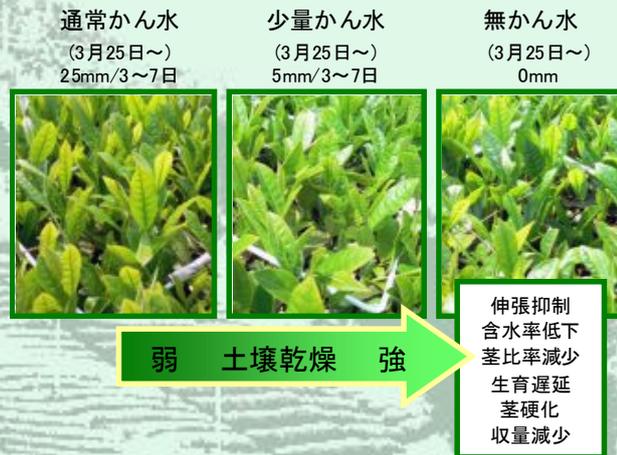


図 降雨制限による一番茶生育への影響

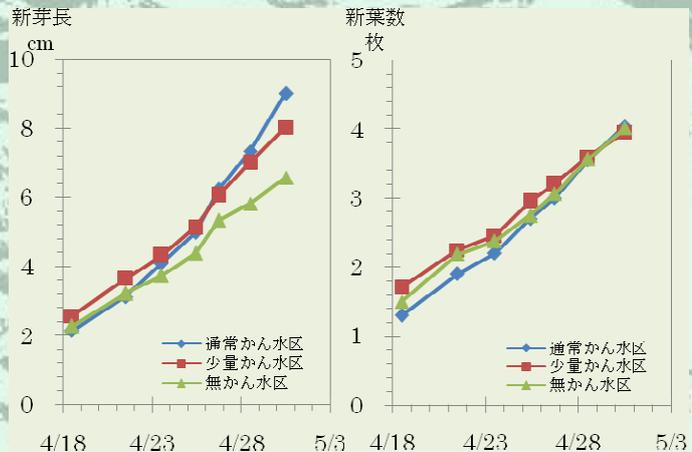


図 降雨遮断下におけるかん水量の違いが
一番茶新芽の伸張に及ぼす影響(2005年)

問い合わせ先 栽培技術開発 0548-27-2884
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp